ISSN 1345-0379

ことばのうみ

KOTOBA NO UMI

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 26 2007. 12

特集 宮城県図書館のルーツを訪ねて その3 ～仙台藩 叡智の礎「伊達文庫」～

写真：『仙台領国絵図』元禄14年（1701）

図書館の「彼女」

佐藤賢一

図書館を好きになったのは、高校生の頃だ。読書家だったわけではない。きっかけは密かに憧れていた女の子が、放課後に図書館に通う習慣だと突き止めたことだった。

真似て、私も図書館に通うようになった。さも勉強目的という顔で閲覧室に進み、文学青年を装うために、ときに文豪の名著まで手にしながら、それとなく女の子の隣に座る。ちらちらと眺めながら、なんの勉強をしているのか、どんな本を読んでいるのか、ということは、こういう性格なのではないかと、様々に想像を膨らませる。大学の頃も、大学院の頃も、他にガールフレンドがいるときさえ、私には常に図書館の「彼女」がいたのだ。

もちろん、ストーカーとは違う。不愉快な思いをさせるどころか、声ひとつかけない。いや、実はかけてみたこともあるが、見事にふられた。それでも作家にはなれたのだから、かわりに本の女神のほうには、いくらか気にかけてもらえたようだ。

（さとう・けんいち　作家）